

記者会見質疑応答

日 時 令和8年1月27日（火）午前10時から
場 所 第2応接室
出席者 ○市 側：市長、木村副市長、総合政策部長、選挙管理委員会事務局長
○記者側：4社4名参加
発表内容 ・第51回衆議院議員総選挙及び第27回最高裁判所裁判官国民審査について

<案件について>

○紙の街の小さな新聞社ひらく

投票所の入場券が皆さんのお手元に届くのは、今の郵便は翌日の配送がされない状況だと思うのですが、遅ければ6日に到着するという可能性があるという理解でいいのでしょうか。これは苫小牧だけのことなのか、他の自治体も同様にこのぐらいのタイミングになってしまうのかということを確認したいのですが。

■選挙管理委員会事務局長

今回の選挙に伴う投票入場券ですが、先ほど市長からもお話がありましたとおり、今回の選挙期間の発表は期間が短く、先週19日の高市総理の記者会見で日程等が明らかになってから業者等に発注をかけておりますけれども、最善を尽くし入場券の発注から、選挙人名簿に登録されている方の住所氏名の印字、その後に郵便局に配送をお願いするのですが、先ほどお伝えしましたとおり、最短で4日までには何とか市内に全て配達ができそうだというお話は何っておりますけれども、場合によっては雪等の影響で5日にかかる場合もあると思っています。

公職選挙法では、投票所入場券は投票日の2日前に届けるという規定になっておりますので、おそらく遅くてもその間までには配送されると思っています。

他市の状況につきましても、遅れる見込みが多い自治体があると我々も把握しております。先ほどお伝えしたとおり、他市も同じ時期なのかということ、それは選挙人の数ですとか、都市の人口などそういった色々な環境があること、発注業者の作業の日程等色々異なりますので、苫小牧と全てが同じかということとは言えないかと思っております。

今郵便局さんをお願いして聞いているのは、2日から配送開始して、何とか4日までに配達したいと伺っております。ただ先ほどお伝えしたとおり郵便局さんの対応もありますし、路面の状況ですとか色々な環境があるので、予定どおり行くかどうかわかりませんが、先ほどお伝えした公職選挙法上の規定があるとおり、投票日の2日前までには間違いなく届けるよう話を伺っております。

○紙の街の小さな新聞社ひらく

今回選挙広報も置かれるということなのですからけれども、いつの段階で手に入るでしょうか。

■選挙管理委員会事務局長

選挙広報につきましては、北海道の選挙管理委員会が作成したものが各市町村の選挙管理委員会に届きますので、今の予定では 30 日に市が受領する予定と伺っております。配布ですけれども、民間の委託業者に配布をお願いするのですが、翌営業日の 2 日月曜日からの配布ということをお伺いしておりますので、5 日頃までには配布が完了すると伺っております。

○紙の街の小さな新聞社ひらく

そうなるコミセンやファミリーマートに配布するタイミングというのは、5 日以降という形でしょうか。

■選挙管理委員会事務局長

ファミリーマートや各コミセンは 30 日に受領した後、すぐに配布をしたいと考えております。

○紙の街の小さな新聞社ひらく

投票所入場券のはがきがなくても投票ができるということですからけれども、このことをあまり知らない方も結構いらっしゃると思ひまして、市としてはどういう周知を図っていきたくと考えていますか。

■選挙管理委員会事務局長

お手元にチラシが配られているかと思うのですが、この啓発チラシを私どもで作成しまして、昨日から委託業者にお願いして配っております。早いところは昨日届いているところもあると伺っておりますが、こちらも全戸配布が完了する予定が、30 日になるのではないかと伺っております。そのほか市のホームページなどでも呼びかけるなど、啓発をしております。

<その他 案件以外について>

○紙の街の小さな新聞社ひらく

1 月 21 日の苫小牧市都市計画審議会で、「(仮称) 美沢地区土地利用方針」というのが提案されました。審議会では同意になったのですが、ここはウトナイ湖の生命線である美々川の隣接地を含む国道 36 号線沿いの土地をラピダスに関連する物流倉庫と、そこに付随する事務所等に限定して、建物は建てられない市街化調整区域の場所を緩和という言葉が委員さんから出ていましたけれども、緩和して建設できるようにするための取り組みを進めるということです。

自然環境への、ウトナイ湖への影響等を鑑みると非常に市長として大きな判断になるのかなと思うのですが、こうした方針を出された市長の思い、考え方についてお聞かせいただければと思います。

■市長

千歳市へのラピダス社の進出を契機といたしまして、様々な半導体関連産業が進出している現状であり、本市においても、苫東地域を含め複数の企業に立地いただいております。私としては、将来に向けたまちづくりを進める上で、これらの展開が更に進み、産業都市として更に飛躍していくことに大いに期待しているものであります。

企業のニーズは様々であると認識していますが、美沢地区につきましては、ラピダス社の製造拠点や新千歳空港に近接しており、物流輸送の大動脈である国道36号線において、物流倉庫等の進出について可能性があるものと考えております。今回、私の考え方をまとめた「土地利用方針」について、都市計画審議会へ提案させていただいたものとなります。

自然環境への配慮については、市としても特に留意すべき事項であると考えておりますので、今後、事業化に向けた相談を受ける際には、関係法令に基づく許認可を得ることはもとより、美々川流域の自然環境への配慮について、関係機関等との協議の上で適切に対応するよう、市からしっかりと伝えてまいりたいと考えております。

本市としては、環境保全と産業展開を両立させた上で、将来も持続可能なまちづくりとなるよう、引き続き発展につなげていきたいと考えているところです。

○紙の街の小さな新聞社ひらく

方針案なのですが、私の認識ではこうした結構大きなものというのは、パブリックコメントを行ったり、あるいは市議会に事前に説明があったりしてきたのかなと思うのですが、今回そうした手続きは行われていません。

今後北海道が、都市計画の変更案を道民に対してパブリックコメントを実施するという流れがありますけれども、市としてこの方針案に対して市民意見を聞く機会なり、市議会への説明なりというタイミングを設けなかったことに対して、私に疑問の声というのも届いております。そこについて市長のお考え、なぜこのような手続きになったのかということをお聞かせください。

■市長

今回の内容につきましては、都市計画法における市街化調整区域を対象とするものであることから、市と北海道で協議を進めながら整理したものであり、市の考え方をまとめた方針が定まったため、規定に基づき都市計画審議会へお諮りしたものとなります。

ご存知のとおり都市計画審議会自体も、市議会からのメンバーで一部構成されておりますし、有識者含め市民を代表する人たちですので、そういう方々に説明をし、そのお考えを聞くという意味においては、パブリックコメントあるいは市議会への説明という形ではありませんけれ

ども、それに値するものであろうかと思えます。捉え方によってはそれで十分かというようにお考えの方もいらっしゃるかもしれませんが、都市計画審議会への説明の機会を持ったというのはそのように意味があるというように考えております。

今後、北海道が策定主体となる「苫小牧圏都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」の中間見直しを本年秋頃に予定しており、その中に「美沢地区土地利用方針」に沿った内容を追記しているものとなります。引き続き、都市計画審議会での審議のほか、策定主体である北海道により、3月にパブリックコメント、8月に案の縦覧を予定しておりますので、それらの機会を通して、広く道民あるいは市民の意見を伺っていく機会があるかと思えますので、そういった結果を捉えて、意見の把握に努めてまいりたいと思っております。

意見が提出されましたら、市としても北海道と共同で回答について整理をしていただく予定でおりますので、そのようにご理解いただきたいです。

○紙の街の小さな新聞社ひらく

都市計画のパブリックコメントを北海道で行う流れというのは、あくまでも市としてこの方針案をあげてそこから進んでいくものであり、そもそもこの案を市として進めても良いかどうかという前の段階の手続きは今回審議会のみであった。しかも一回の審議であった。先ほど市議会議員の方がはっきりと審議会の中では疑義があると申されておりました。なので、いつゴーサインを出したのかという部分での市民の方の疑問なり、もしかしたら市議会議員の方でもそう考える方がいるかと思うのですが、もう一度どのようにお考えになるかという部分をお聞かせいただけますか。

■市長

この件に関わらずですが、市民の意見をしっかりと把握する努力は、行政としてはやっていかなければならないものということを、基本に私は思っております。

今回審議会に説明をさせていただいて、その考え方の案が承認いただけるかということだったと思いますが、私も担当からの報告、あるいは議事録も拝見させていただきましたが、様々な質問あるいは意見・疑義も含めて出た中ではございましたが、審議会の会長が、審議会メンバーに諮ってこれでいいかということ承認をいただいたという形だと理解をしておりますので、場合によりましてはその審議会ですら決めず、もう1回議論してそれで決めましょうということも選択肢としてなかったわけではないと思いますが、会長のご判断あるいはメンバーの最終的な判断の中でこの考え方を承認したということで捉えておりますので、その判断は市としては尊重したいと思います。

○北海道建設新聞社

日ハム2軍誘致についてなのですが、今年に入って多くの団体の新年交礼会等で、6月頃の決定に向けて今年は非常に大きな1年になるというようなご発言をされていたかと思えます。残りわずかになった誘致活動期間だと思うのですが、今後に向けてラストスパートとい

いますか、どういったところを再度球団側にアピールして、経済団体とどう連携しながらやっていきたいかという意気込みを聞かせていただきたいです。

■市長

私がチャレンジを昨年表明して以降、期成会の結成から、様々な方に機運の醸成に取り組んでいただいております。市民の皆さんからも会うたび実現に寄せる期待の声を多数いただいております。限られた期間の中ですが、苫小牧への誘致実現に向けてやれること全てやっていきたいという決意でいるところです。

繰り返しお話をしておりますが、やはり鍵になるのは適切な土地をどこに用意できるのか、あるいは公的な投資をどこまでできるのかというようなところかと思っておりますが、それ以外にも市民の皆さんが色々取り組んでいただいている応援する動き、高校生が誘致に向けた団体を立ち上げたことですか、今後もしろいろと表面化してくると思います。更に広域でファイターズ2軍施設を誘致しようという動きが期成会の皆さん中心に、あるいは官民一体となってやっていく動きが今後出てくるのではないのかと思っております。そういったもの全てファイターズの関係者、あるいはその他の関係者も含めてアピールしながら協議を続けていきたいと思っております。